

地域おこし 第2次採択

意欲的なアイデアの12事業



写真資料=地域を活性化するためにやってきたゲイビマン 7月11日 千夜夜市

市は市民同士の活動と活力ある地域づくりを支援するため助成を行う「地域おこし事業」に、

新たに12事業を採択しました。今回採択した事業は、本年度第2次分として応募のあった13事業について7月5日、公開プレゼンテーションおよび審査会を開催し、▼自発的で活性化の趣旨に沿うか▼将来的に市全域に波及する見込みがあるか▼人材育成、産業振興に寄与するものか▼交流人口の増加が見込めるか▼などの観点から審査が行われ決定されたものです。

「将来の一関市が女性や若い人たちにとって魅力ある町であり続けるために、交流や活力ある地域づくりに向け意欲的なアイデアを寄せていただき敬意を表す。まちづくりに女性や若い人たちに参加していただけるよう進めたい」と語りました。

本年度の地域おこし事業は、当初採択分と合わせて46事業、助成額1974万6千円となりました。なお、第3次分の応募を8月31日①まで受け付けます。

◎問い合わせ先
本庁協働推進課協働推進係
☎8671

■地域おこし第2次採択事業

区分	事業名	実施主体
活発な産業活動を促すことにより所得の向上を図り、心身ともに健康な生活を送ることができる環境を整える		
般	あじさいの郷づくり推進事業	あじさいの郷づくり推進会議
般	広い一関！新発見スタンプラリー	㈱一関観光協会
安	食の安全・安心情報発信事業	花菜油の会
市民自らが発案し自らが行動することにより、積極的な地域づくりを行う		
般	室根山自然環境観察事業	室根山観光協会
般	相川音頭普及事業	相川音頭承継会
般	一関の神楽PR・交流事業	南沢神楽
般	エジプトとの連携交流事業	北上川リバーカルチャーアソシエーション
般	先人顕彰太鼓新曲作調事業	老松先人顕彰太鼓保存会
般	地域団結強化夢追い機関紙発行事業	松原自治会
般	真澄と慶明「歴史とロマンの里づくり」事業	真澄と慶明「歴史とロマンの里づくり」史跡保存会
安	一関公園探検隊	NPO法人いちのせき子育てネット
一体感のある地域づくりを推進する		
若	地域活性化ネットワーク事業(六魂戦隊☆ゲイビマン)	ゲイビマンプロジェクト委員会

※事業名の「般」は一般事業、「若」は若者が主役事業、「安」は女性が主役事業

市民活動事例 レポート

丑石・市ノ通自治会の連携

大東町丑石自治会と市ノ通自治会の地域は地域おこし委員会を組織し全住民で取り組む地域づくりの実現に向けて歩み出しました。北に蓬萊山(地元では「よもぎ山」と称されている)を望み、自然豊かな里で伝統と文化をいくんている両自治会、「よもぎ山」を地域資源としてあらたな価値を創造するため、自分たちで考え楽しく学びながら地域を

元気にしたいと本年1月、いちのせき市民活動センターが開催した市民活動体験講座「地域おこし事業に申請してみよう」に参加しました。2月には同センターにコーディネーターの派遣を要請、地域課題や地域資源の掘り起こし、自分たちが思い描く将来の姿などの話し合いを重ね、今、自分たちができることをやってみよう

うとの結論に。そして両自治会は、本年度の市地域おこし事業に申請採択を受けて「遠足は、よもぎ山事業に取り組んでいます。コーディネーターを交えた地域の話し合いは7月までに12回。当初は「何をやらされるのか」と不安な面々でしたが、回を重ねて意識が高まってきていて、今後の活動が楽しみです。



丑石・市ノ通自治会の地域おこし委員会

市民 フェスタ

市民活動の元気を発信

いちのせき市民活動促進会議インナーチが主催するいちのせき市民フェスタ09は7月19日、一関文化センター体育館で催されました。

今年で4回目を迎える同フェスタは▼地域おこし▼ちびっこ▼環境▼福祉の四つのゾーンと飲食コーナーに分かれ、NPO法人などが出展。「おやこ広場」「ネイルアート」「介護用品展示」など多様な体験・展示・販売コーナーが設けられたほか、ステージでは「クラウンろっく」「シカイダーマン」などのライブも行われました。

さらに今年は、市民活動・地域づくりの先進事例の閲覧、資料の購入や事例発表を行う全国各地

域事例トレーニングパークも開設。14団体が参加し、団体同士の交流を深めたり、来場者の市民活動への関心を高める学びの場となりました。

友人2人とお子さんと訪れた市内の女性は「子ども服の無料交換会は種類が豊富でとても良かった。子どもはエアートランポリンが気に入ったみたい」と、親子で楽しめた様子でした。

同フェスタの来場者数は約500人。インナーチの代表を務める小野仁志さんは「今年により手作り感のあるイベントにでき充実していた」と振り返りました。



上 作り方を教わりながらバルーンアートに挑戦しました
下左 開幕から大勢の来場者でにぎわった子ども服無料交換会
下右 14団体が参加した全国地域事例トレーニングパーク

いちのせき 健康の森

震災乗り越え利用再開

昨年の岩手・宮城内陸地震の被害により休館していた「いちのせき健康の森」再開式は7月18日、同所で行われ、約200人の関係者や施設利用者が利用の再開を祝いました。小雨のためセミナーハウス体育館で行われた再開式。開会に先立ち、岩手・宮城内陸地震の日にならび須川登山に向かう途中で被災し、同所に避難した森山英司さん、仙台市が体験を公表しました。浅井市長は「震源地に近かったため被害が大きく、休館を余儀なくされたがやっと



右 関係者がテープカットを行い利用の再開を祝いました
下 本寺小児童が元気いっぱいによさこいソーランを披露



利用が再開できた。生涯学習の拠点としてより多くの市民に活用されることを願う」とあいさつ。関係者や利用者代表らによるテープカットで施設再開の喜びをかみしめました。本寺小児童が元気いっぱいによさこいソーランを披露したほか、もちつき、チェンソーアート、自然観察会などが行われました。いちのせき健康の森は、創作室以外の施設は利用可能で、開館しながら復旧工事を行っています。